答辞

令和五年三月のこの佳き日、わたくしたち普通科三一二名は無事卒業式を迎えることができました。

本日は、わたくしたち普通科卒業生のためにこのような心温まる卒業式を挙行して下さり、まことにありがとうございます。

思い返せば、私たちの学校生活の始まりは、異例のことずくめでした。入学とは名ばかりで、初めて登校できたのは五月も半ばになってから。それからもしばらくは週に一度の学年別登校。そしてやっと出来た入学式も六月に入ってからで、出席番号の奇数偶数に分かれての放送によるものでした。それからもしばらくは分散登校が続き、初めてクラスメイトが全員揃った時には、もう初夏の日差しに暑さを感じ始めた六月の半ばになっていました。多少の緊張感に包まれた教室は思いのほかにぎやかで、当たり前だと思っていた日々が帰ってきたように感じ、やっと高校生になれた実感が湧いて胸が高鳴りました。そのようにしてマスク着用により素顔を見せることなく突然始まった学校生活は、初めての経験で慌ただしい日々でしたが、毎日が新鮮で充実していました。そんな中、予定されていた陸上競技会や文化祭などの学校行事もやむなく中止となってしまいましたが、十一月には校外レクリエーションとして千葉市動物公園へ行くことが出来ました。ふだんはマスク越しで、うかがい知ることの出来なかった友人たちの別の面を見ることが出来てとても嬉しくなりました。

中学生の時とは全く違う一年生としての時間もあっという間に過ぎ、二年生になりました。クラス替えの際には、自分はどんなクラスの一員になるのか、と皆が胸をときめかせていました。行動制限が少しずつ緩和され、一年生の頃には開催できなかった陸上競技会や文化祭を行うことができました。私は陸上競技会で今まで知ることのなかった文Ⅱコースの生徒たちの活躍を目の当たりにし、圧倒されてしまいました。文化祭ではクラスで一本の動画作成をしました。それぞれのクラスの個性が前面に出ており、見応えのあるものばかりでした。また、体育館ではダンス部や軽音楽部などのパフォーマンスがあり、普段見ることのできない仲間の一面を見て感激しました。これらの行事では、クラスメイトなどと協力してひとつの目標に向かって一致団結することが必要とされ、多くの学びがありました。そして秋には長崎への修学旅行も予定されておりましたが、残念ながらコロナウイルスの感染拡大により中止となってしまいました。私はこの決断を受け入れられず、悔しさと行き場のない感情で胸が一杯だったことを今でも覚えています。しかし三年生になる直前には、代わりとして江ノ島や鎌倉、よみうりランド、あるいは八景島方面への一泊旅行の機会を与えてくださり、短いながらも濃密な時間を多くの仲間と分かち合うことができて、良い思い出になりました。

そして責任を負うことの増えた三年生では、それぞれの部活動で集大成の姿を魅せる仲間の姿がありました。私は吹奏楽部員として、高校生活では初めてとなる野球応援に参加しました。球場で一心不乱にボールを追いかける野球部員の姿を見て、更に応援させてほしいという感情が生まれました。スポーツと音楽という全く異なるジャンルのものであっても

何か繋がるものがあるということに気づきました。それと同時に、部活動を思う存分できる環境が当たり前でないことや、最高の結果を残すために日々の部活動を一生懸命に行うことの大切さを理解しました。部活動以外の場面でも、自らの進路や技術向上に向けて必死に頑張っている仲間がたくさんいました。その姿を見て、いつまでも子どもではいられない、大人にならなくてはいけないという意識が皆の中で高まっていくように見えました。また、冬になって少しずつ卒業が近づいてくると、私の中で入学から今までの生活を振り返る機会が度々ありました。仲間との楽しかった思い出に浸る一方で、定期考査で納得のいかない結果を見て悔しかったことや、くだらないことで対立していたことが今ではいい思い出です。

今こうして壇上に立つと、私たちが過ごしてきた三年間の記憶が鮮明に蘇ります。充実した学校生活を送ることができたのは、ここにいる全ての方々のご支援があってこそです。本当にありがとうございました。私たちは、本校で出会った信頼できる仲間たちと共に、それぞれの進路に向かって歩き出します。どうかいつまでも見守っていてください。

最後になりましたが、今までお世話になりました佐久間校長先生をはじめとする多くの先生方や学校関係者の方々、また保護者の皆様に改めて感謝申し上げます。そして、母校のさらなる発展を心よりお祈り申し上げ、答辞といたします。

令和五年三月四日
普通科卒業生代表　　三年四組　鈴木結